本を選ぶ

NO.479 2025年(令和7年)4月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

https://www.las2005.com

本社 〒114-0002 東京都北区王子4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぽわん>岐路とＹ字路

●大学教員ノート 第１３回

●校正・校閲の個別性

ろん・ぽわん

岐路とＹ字路

3月下旬に中型の鳥が庭に飛来した。例によって例のごとく2羽でお出ましだが、羽音が大きいので毎朝すぐにわかる。数日後、窓越しに近い枝で姿を見せた折りスマートフォンで写真を撮った。すると、頼みもしないのにグーグルレンズ氏曰く「ヒヨドリ科ヒヨドリ属ヒヨドリ」との情報がもたらされる。なるほど。

グーグルにはストリートビューなるサービスがあるが、便利に使われていると思われる。たとえば、初めての場所に行くとして番地を手がかりに先ずは地図上で場所を特定する。次にストリートビューで建物や付近の画像情報を得る。なるほど。さらに画像については、暦年情報が付いているから、さらになるほど、となる。過去にグーグルが折々に撮影した画像を閲覧できる仕掛けだ。10年以上前の建物の形や色が残っていたりする。そこには有名無名にかかわらず、街角の歴史が詰まっていると言える。

『Ｙ字路はなぜ生まれるのか?』(重永瞬 著／四六判並製／晶文社／2024年) は、右と左に道が鋭角に分かれて「Ｙの字の形」になった三差路について考察した労作だ。著者の重永瞬氏はＹ字路に魅了された一人で京都大学大学院で地理学を学びながら研究を続けている。しかしこの本は研究論文ではなく、Ｙ字路についての熱のこもった解説本である。その独特なたたずまいに惹かれるＹ字路愛好家も多く、現代美術の横尾忠則氏がＹ字路をテーマにした作品を描き続けていることは有名だ。Ｙ字路の個性を形づくるのが、二股になった道がつくる角で、著者は「角はＹ字路の顔」と呼ぶ。Ｙ字路の角にある建築物で日本一有名なのは1979年に東急グループが開業したファッションビル「SHIBUYA109」だそうだ。渋谷には205か所のＹ字路があるみたいだ。

Ｙ字路で思い出したのがパリ6区の小さな書店レスカリエ (Librairie de L'Escalier)。ムッシュウ・ル・プランス街 (Monsieur le prince) とラシーヌ街 (Racine) の三差路にある。店名のレスカリエとは階段という意味で、文字通り階段を降りると地下に書店の棚がある。今はどうなのかは不明だが、訪れた当時は児童書専門店だった。店主の女性と本について話し込んだ記憶が残っている。

「そのＹ字路を右に行くのと、左に行くのとではまったく別の世界が開けている――」『Ｙ字路はなぜ生まれるのか?』の帯にはこんな惹句(じゃっく)がある。二者択一では同時に両方を選べない。「道」には象徴的な意味がある。例えば進路のような生きていく上での決断でその時選んだ道で苦難に遭えばその選択を悔いるかもしれないが、だからと言ってもう一方を選んで成功するのかは誰にもわからない。とにかく自ら行ってみるしかない。(埜村太郎)

大学教員ノート 第13回

手紙－わたしとワタシの往復－

石川 敬史

ところでみなさん、「手紙」を、どのようなときに書きますか。最近、いつ「手紙」を書きましたでしょうか。いかがでしょうか。ひょっとすると、手書きではなく、メールやLINEなどで綴った方も多いのではないかと思います。

手紙は、単なる文章や情報ではなく、書き手の「思い」や「気持ち」が込められているものであることは、ご存じの通りと思います。例えば、卒業研究の調査などで、お世話になった方々へのお礼、感謝を伝える手紙、中学校や高校などでお世話になった先生方への手紙、親友・友人への手紙、ご家族のみなさんへの手紙、病気や入院・災害にあわれた方を励ます手紙などを思い浮かべますでしょうか。でもその一方で、うまくいかなかったり、失敗したときのお詫びや謝罪の手紙もあるかもしれません。

では、みなさん、「自分」への手紙はいかがでしょうか。みなさま、少し目を閉じてお考えいただけますか……。例えば、これから大学に入学する、「あの頃のわたし」を思い出してみてください。もし「あの頃のわたし」に手紙を書くとしたら……何を、どのように書きますでしょうか。

不安と緊張でつつまれた4月の入学式、その後の通学や授業は慣れずに疲れてしまい、4月や5月はとても大変だ。けど、大丈夫、4年間、なんとかなるよ――という、なんとかなる系の手紙。

○○先生の授業は楽勝だよ。授業中寝ていても単位が取れるね。でも、××先生の授業は、とにかく厳しくやばいので、気をつけたほうがいい――という、過去の自分への注意系の手紙。

レポート課題の嵐で、本当に大変だった。とにかくレポートの優先順位や計画づくりが必要だね。あとは先生の人柄とか個性とかをよくみること――という、アドバイス系の手紙。

授業でのグループワーク、サークル活動などで、とにかく実に個性豊かな人に出会うよ。学科の先生も、実に個性があり、笑ってしまうから、気をつけるように――という、一期一会系の手紙。

これからたくさんのことを学び、得ることが多いので、まだまだ無限の可能性がある――という、可能性系の手紙。

そして、これから社会へ羽ばたいていくみなさん、いつしか、大学を卒業した「あの頃のわたし」へ手紙を書く機会が、きっと訪れるはずです。そう、5年後、10年後、20年後かもしれません。何か大きな流れに身をゆだねるのではなく、誰かのいいなりになるのではなく、あの頃の「わたし」に手紙を書くように、「いまのワタシ」の思いや気持ちに、ゆったりと向き合う、そんなのんびり回り道する時間も大切にしてみてはいかがでしょうか。

お手元にある『文芸文化学科　令和6年度卒業研究要旨集』。この冊子の冒頭のページをご覧ください。卒業論文を書く前の「あの頃の石川君」への手紙を綴ってみました。大変お恥ずかしい文章ですので、今、読まずに、後ほどご笑覧ください。

他者から評価されたいとか、正しくありたいとか、絶対成功しないといけないとか、立派でなければならないとか、誰かの視線を気にして無理な緊張をしながら、何か不安ばかりを抱き続けるのではなくて、みなさんが選び進んだ道が、いつしか長い年月をかけて、結果的に正解となるように、まずはそんな気軽な気持ちで前に進んでみてはいかがでしょうか。

焦ることはありません。大学で学んだことは、みなさんの中で生き続けています。

大丈夫。毎日がみなさんのはじまりの日です。

＊　＊　＊

卒業式における「学科の集い」の言葉――3月末でようやく初心者マークを外すことができる学科長の言葉である。「手紙」をテーマに、原稿を持つ左手を緊張のあまり震わせながら（マイクを強く握る右手の存在を忘れ）、ゆっくりと卒業生へ語りかけることができた（と思う）。「みなさま、少し目を閉じてお考えいただけますか……。」とお願いしたところ、卒業生のみならず、会場後方のご家族のみな

さんも目を閉じてしまった……。

この中にある『文芸文化学科　令和6年度卒業研究要旨集』は、全員の卒業論文の要旨を綴じた冊子である。

＊　＊　＊

これから卒業論文を書き始める君へ

卒論を書き終えて20年以上が経ったが、いま改めて思うのは、とにかくテーマに悩みに悩み、先生をはじめいろいろな人に聞き続け、なかなか決められず、格闘した日々を過ごしたことである。スタートダッシュはできないので覚悟するように。小田急線の車内で「駅と図書館」というテーマを教育哲学の指導教員へ相談するが、大声ではなく、小さな声で相談すること。周囲の乗客を忘れないように。そして落ち込まないこと。「そのテーマはダメだ！」と車内で言われてしまうので、今から心の準備が必要である。

調べに行くことになる埼玉県立浦和図書館には、埼玉資料室という素朴な部屋があり、満席になる場合もあるので、注意するように。入って左側の窓際の席がベストポジションであることが、しばらくするとわかる。古い机と座席、本の匂い、さまざまな資料との出会いがあるが、書庫から出納してくれる厳しい司書との出会いは大切にしよう。以後、いろいろな見学や調査に協力いただけることになるので、しっかりとアドバイスを受けて、名前を覚えてもらうこと。

大学での卒論指導は、ほとんど無いので、注意が必要である。外に出かけたり、大学前の店で毎週飲むので、終電には気をつけてほしい。家に帰るまでがゼミである。副指導の非常勤の先生は、数年後に日本図書館協会の副理事長になる。指導教員も副指導教員も、卒業後も、ずっとつながりがあって、就職や仕事など気にかけてくれるので、手紙のやり取りは続けてほしい。

驚くと思うけど、卒論の成果は、他大学の先生の推薦で研究会にて口頭発表することになる。しっかり準備すること。当日、会場の国立国会図書館の入り口が分からず、迷いに迷い、遅刻することになるので、注意するように。

卒論を書き終えると、卒業の2文字がすぐそこにある。大丈夫。きっとうまくいくから。

三谷幸喜さんによる『朝日新聞』や『日本経済新聞』に掲載された2025年1月13日の「あの頃の僕へ。」。三谷さんが成人の日に若者へコトバを贈っていました。刺激を受けて、「あの頃の石川君」へ手紙を書きました。

みなさんが、これから卒業論文を書き始める君へ手紙を書くとしたら……。そう、卒論はずっとみなさんの心の中で生き続けています。

＊　＊　＊

卒業式の学科長の言葉を贈る前に、まず、私自身が卒業論文を書く前の「あの頃の石川君」へ手紙を書いた。改めて読みなおすと、大変お恥ずかしい限りである。

> 人はひとりだけで生存することはできない。生存することは人と人のつながりのなかにあるものであり、生存すること自体のなかに他者に働きかけるきっかけが含まれている。生存の仕組みは、日々を生きる人びとが他者に働きかける側面と国家の対応のかかわりのなかでつくられる。

歴史学者の大門正克は、地域で生きる住民の経験に即して歴史を描いている（『戦争と戦後を生きる：一九三〇年代から一九五五年』大門正克／小学館／18頁）。「あの頃の石川君」へ手紙を綴ると、人間は、さまざまな社会環境や制度、人と人との相互の関係性の中に存在していることに改めて気がつく。

> 歴史学は、今を生きる人間が過去を問うものである。

大門は続けて、現在という時代の歴史的意味について反芻・更新して、考え続けることをたえず求められていると指摘する（『日常世界に足場をおく歴史学』大門正克／本の泉社／213-214頁）。

「今のワタシ」が「あの頃のわたし」を思う――2人の私の往復が「私になる」につながる。

（いしかわ　たかし：十文字学園女子大学）

校正・校閲の個別性

牟田 都子

「校正・校閲者本」制作の動機

図書館といっても学校図書館や大学図書館と、公共図書館とでは役割が異なる。20代で勤務した市区町村立の図書館においては、立地、利用者によって蔵書や求められるサービスも違った。『校正・校閲11の現場　こんなふうに読んでいる』（アノニマ・スタジオ）は、校正や校閲と呼ばれる職種（以下、本稿では校正に統一）もそのように多様であることを伝えたいという思いから制作が始まった。

校正するのは本に限らない

私自身は図書館を離れたのち、出版社の校閲部に業務委託契約の職を得て校正者となった。いまはどこの組織にも属さず、個人で出版社から書籍の校正を請け負う形で働いている。

校正とは「印刷物や原稿を読み、内容の誤りを正し、不足な点を補ったりする」（『大辞林』）仕事だ。2016年放映のＴＶドラマ『地味にスゴイ！　校閲ガール・河野悦子』や、2023年の『ＮＨＫプロフェッショナル　仕事の流儀　縁の下の幸福論～校正者・大西寿男～』で知名度を上げた。前者はフィクション、後者はドキュメンタリーだが、どちらも文芸書、ＮＤＣでいえば「９　文学」を主戦場とする校正者が主人公だ。

しかし、校正の対象は文芸書に限らない。それどころか本ですらないこともあるという事実は、あまり知られていない。

たとえば新聞には校閲記者がいる。書かれた記事に目を通し、誤字脱字や文法の誤りだけでなく、固有名詞や数字、事実関係の確認も行う「書かない記者」だ。出版社勤務時代の同僚のひとりは、過去にスーパーのチラシの校正をしていたと聞いた。髙橋秀実『ことばの番人』（集英社インターナショナル／2024年）には医薬品のパッケージや添付文書の校正担当者が登場する。

私がこの仕事を始めた頃は、図書館で「749.13校正」の棚を探しても、活版印刷時代のものがわずかに見つかる程度だった。ＤＴＰ時代の、インターネットを駆使して行う校正について書かれた本はなかったのだ。ないのなら自分で書こうと、15年間の経験とその中で考えたことを書いたのが『文にあたる』（亜紀書房／2022年）だった。執筆中から、自分の知らない「現場」を訪ねて文章にしたいという思いはあった。世間の持つ校正者のイメージが文芸のそれに偏っていることが気になっていたものの、私自身の経験も文芸書、人文書に集中しており、それ以外の現場を知らなかったからだ。

KTC 中央出版 アノニマ・スタジオ
定価：本体 2,000 円＋税
刊行：2024 年 12 月

制作の実務

賛同してくれる編集者が現れて、取材先の候補を15～20リストアップし、最終的に11に絞った。毎日新聞社校閲センターのように以前から交友を持っていた取材先もあれば、リサーチ中に存在を知り、コンタクトを取った取材先もある。

編集者のアイデアで写真を入れビジュアルを打ち出す作りになることが決まり、それを踏まえて装丁家、写真家、ライターへのオファーがなされた。

取材は2024年３月に始まり、７月に終わった。編集者、ライター、写真家、私の４人で取材先に赴き、話を聞き、撮影を終えると２時間前後。雨の日が多く、機材の多い写真家は大変だったと思う。取材の進行や撮影の段取りなどは、雑誌の経験が長いライターに助けられた。

謙虚にならざるを得ない仕事

同業者といっても、実際の職場を目の当たりにして、赤字の入ったゲラ（校正刷り）を前に話を聞くと、驚くことばかりだった。ＴＶ番組１本につき何千枚というテロップを24時間体制で校正している人たち。書籍１冊分に相当する文字量を１日で読む人

たち。絵や写真、地図など、文字に限らない情報をも「読む」人たち。

全員に共通していたのは、第一印象が謙虚であり、取材を終えてもその印象は変わらないことだった。長年の経験と、容易には真似のできない職能の持ち主であるにもかかわらず、自分を大きく見せようとする人はひとりもいなかった。

校正とは他者のミスを未然に防ぐ役割だが、校正者自身もまた「ミスを見逃す」というミスを犯している可能性から逃れることはできない。本書に登場する校正者が「無傷の校正者はいない」と言ったように、誰もが手痛い失敗を経験した傷を抱えながら仕事を続けている。それゆえの謙虚さなのだろう。

類書がないからこそ作る

取材先が見つからず掲載を断念したのは、児童書、手芸書、映画字幕、印刷所の内校などのジャンルだ。類書を作りたいという著者や版元があれば、アイデアとして検討してほしい。

類書という言葉は、編集者の知人と話していると折々に顔を出す。図書館員時代、類書がないとは選書の対象であることを意味した。出版においては逆で、類書がないために企画会議を通らない、部数が抑制されることは多いという。書店でどの棚に並べればいいかわからないというのが理由だそうだ。『11の現場』は類書がないからこそ作った。この数年間で校正について書かれた本は増えたが、その実態を豊富な写真と当事者の言葉で記録した本は、他にないと断言できる。

個別であるということ

『口笛を吹きながら本を売る　柴田信、最終授業』(石橋毅史著／晶文社／2015年)という本がある。東京・神保町の岩波ブックセンター(現神保町ブックセンター)の店長を長らく務めた柴田信、この本の中では「柴田サン」と呼ばれる人物の書店員人生を、何年もかけて聞き書きした本だ。

「これからの書店」の話などできない、と「柴田サン」は言う。書店はひとつひとつ違う。どんな街で、どんな店と並び、どんな客を相手に商売をするのか。そこには「個別の事情」がある。だから、できるとすれば自店の「これから」の話だけだというのだ。

このくだりを読み返し、私が『11の現場』で描きたかったのは個別性だったのだと腑に落ちた。校正者とは職業の名前であって、それを担うひとりひとりはみな違う。

これから社会に出ていく若い人たちにとって、ひとつの職業案内ともなればと作った本だが、読書もまた個別の体験だ。誰がどう読むかはわからない。それが本のおもしろさでもあると思う。

(むた　さとこ：校正者)

DMかたろぐ

ESTRELA
■2025年4月号
No.373/4月10日発行
B5判　64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕ネパールの最近の統計事情

■ネパール国家統計局の最新事情／
西 文彦(横浜市立大学大学院データサイエンス研究科客員教授／(公財)統計情報研究開発センター 主任研究員)

■ネパールの人口推移・移住と経済成長・生活環境改善― ネパールの人口センサス ―／
廣畑 伸雄・福代 和宏(山口大学大学院技術経営研究科教授)

■2018年ネパール経済センサスにおける観光産業及びホスピタリティ産業の概要／原田 絵美((株)日本経済研究所 産業戦略本部海外調査部 副主任研究員)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6　能楽書林ビル５階
TEL : 03-3234-7471　https://www.sinfonica.or.jp/

日本理学書 新刊目録
２０２５　Ａ５判／ 47頁
◆会員出版社９社の新刊、約140点を紹介。
◆科学一般／数学／物理学／化学／天文学・宇宙科学／地球科学・地学・地質学／生物科学・一般生物学／植物学・動物学の8部門に分類。
◆URL　http://www.rigaku.gr.jp
日本理学書総目録刊行会
http://www.rigaku.gr.jp

マーサ・ヌスバウム／
栗林寛幸・池本幸生 訳

ケイパビリティ・アプローチとは何か

生活の豊かさを測る　世界を変えるアプローチへの入門書。　4400円

ジョン・ローマー／
後藤玲子・吉原直毅 訳

機会の平等

境遇による格差から自由な社会に向けて
正義論×経済学。　5170円

勁草書房（けいそう） TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854 ＊価格税込
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 https://www.keisoshobo.co.jp

歴史学・考古学・民俗学の垣根を超えて紡ぐ、日本という国と人間の成り立ち！

政治の米・経済の米・文化の米

稲と米で読む日本史

新谷尚紀 著

日本の歴史と文化を根本的に見直すと、〈稲と米〉にたどりつく――。

四六判 上製 定価3,300円(本体3,000円＋税10%)

山川出版社　TEL 03-3293-8131　FAX 03-3292-6469
〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13　https://www.yamakawa.co.jp/

「私の二〇代は、この本を書くためにあったと言っても過言ではない。」

日本に亡命したインド独立の闘士。アジア解放への希求と日本帝国主義への依拠との狭間で引き裂かれた、懊悩の生涯を描く。

■ 白水Uブックス／ 404頁
■ 定価 1,870円(税込)

中島岳志[著]

中村屋のボース

インド独立運動と近代日本のアジア主義[新装版]

白水社　101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24
www.hakusuisha.co.jp/　tel.03-3291-7811

日本の医療制度の仕組みと問題がよくわかる！

知っておきたい医療リテラシー(仮)

日本の医療の効率と公平を問う(仮)　6月中旬刊

林　行成[著]　●予価1980円(税込) 978-4-535-54055-2

ニュースでたびたび耳にするものの、実はよくわからない、複雑すぎる日本の医療制度。その仕組みと課題をわかりやすく解説。

離散幾何解析へのいざない

数学から物質科学へ　6月中旬刊

小谷元子・内藤久資[著]

離散幾何解析の基礎から物質科学への応用までを平易な言葉で伝える。

●予価2640円(税込) ISBN 978-4-535-78722-3

日本評論社　〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 https://www.nippyo.co.jp

民主主義の比較政治学

伊藤　武・作内由子・中井　遼・藤村直史 著

現代の民主主義国の政治に焦点を絞って，議会や政党はもちろん，文化，宗教，司法などさまざまな分野を取り上げて説明していく新しい比較政治学のテキスト。世界的に民主主義が後退していると言われる今こそ，民主主義国の政治のしくみをじっくりと考えてみよう。

y-knot 四六判 定価 2420 円

ものづくりの革新　英米日の歴史に見る製造現場の管理

和田一夫 著

産業革命期の綿紡績工場の多層階の建物はどのように設備が設置されどのような管理が行われていたのか，互換性部品製造の工廠内部はどのように管理されていたのか，「伝票」はものづくり現場で，なぜ，いつ頃から使われるようになったのか。緻密に追究する。

四六判 定価 2640 円

有斐閣　東京都千代田区神田神保町2-17
https://www.yuhikaku.co.jp/　価格は税込

ANALOGICAL WAY OF OBSERVING ARCHITECTURE

建築を見る技術

坂牛卓
Sakaushi Taku

建築と料理は同じ？
音楽のようにリズムがある？

「見立て」から建築を理解できる画期的入門書。
世界の建築を102枚の図版で紹介する。1980円

晶文社　〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940　https://www.shobunsha.co.jp/